

成岡マネジメントオフィスからのメッセージ

エシカル消費とは

最近新聞紙上など多く目にする機会がある「エシカル消費」という言葉。「エシカル」とは「倫理的、道徳的」という意味の英語だ。「エシカル消費」とは、地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動のこと。我々一人一人が、社会的な課題に気づき、日々の生活、買物を通してその課題解決のために、自分は何ができるのかを考えてみる。これがエシカル消費の第一歩だ。大量消費型の社会から、持続可能な社会への転換に際し、キーワードになる言葉だ。

●つくる責任、つかう責任

2015年9月に国連で採択された持続可能な開発目標、いわゆるSDGs17のゴールのうち、特にゴール12に関連する取組みに該当する。この17の目標の中にも、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的な社会などの目標と併せて、「持続可能な生産、消費形態の確保」という目標が掲げられている。つまり、生産する側、消費する側の双方に持続可能な目標を設定することが求められている。



エシカル消費のイメージ

●人・社会への配慮

おやつの時間に食べるチョコレートや、毎日身につける衣類の材料となるコットン（綿）など、我々の身の周りにある食品や製品には、原材料が作られ、加工され、我々の手元に届くまでにたくさんの人が関わっている。原材料の多くを生産する発展途上国には、安い賃金で働いており十分に生活することができず、貧困に苦しむ人たちがいるはずだ。その中には、労働者として働き、学校に通えない子どもが多くいるのも事実だろう。また、障がい者が働く施設では、日用品などが製作されているが、まだ多くの人々に浸透しているとは言いがたい。そして、その結果として障がい者の多くが、安い賃金で働いているという実態がある。商品やサービスの裏に隠されたストーリーに、思いを巡らせてみるのが大事だ。人・社会に配慮された商品を見つけて、選んで購入することで、より多くの人々が持続可能な生活を送れるようになるはずだ。具体的な行動としては、商品の選択に際し、フェアトレード認証商品、売上金の一部が寄付につながる商品、障がい者支援につながる商品を選択するなどの行動が求められる。



商品の裏のストーリーを考える

●地域への配慮

遠方で生産・製造された食材や商品がインターネットを通じて、いつでもどこでも好きなだけ購入できるネットワークが我々の生活の中に浸透している。一方、我々の住む日本は、山、森、川、海といった豊かな自然に加え、多様な気候や地形の影響もあり、全国各地でその

土地特有の産物が作られ、様々な地域社会が育まれている。「簡単」、「便利」に購入できることは魅力的だが、「地域の振興」も買物では大事な視点の一つだ。地元の本屋さん、電器屋さん、肉屋さんなどでの買物を心掛けることも、エシカル消費という観点では重要なテーマになる。地元の食材を「選ぶ」ことや、地元のお店で商品を「買う」ことは、地元を「応援する」ことにつながる。具体的な行動としては、地産地消を意識する。被災地で作られたものを購入することで被災地を応援する。伝統工芸品を購入するなどの行動が結果につながる。



地元での買い物

●環境への配慮



地球環境に注目

「地球」というスケールで社会を考えると、我々が多様な動植物と共存していることや多くのエネルギー資源、原材料、食料品などを海外から輸入していることに気付かされる。大量生産・大量消費・大量廃棄の暮らしによって、地球温暖化や海洋汚染などが発生し、生態系が破壊され、エネルギー資源が減少し、異常気象による農作物への被害などが深刻化している。日々の暮らしの中で、「もったいない」と思うことは何だろうか？地球環境の現状や問題を「自分には関係ない遠い話」と見過ごすのではなく、より良い未来に向かって、一步を踏み出すことが大事だ。具体期には、エコ商品を選ぶ、買物のときにレジ袋の代わりにマイバッグを使う、資源保護の認証がある商品やCO₂削減の工夫をしている商品を購入する、マイボトルを利用する、食品ロスを減らす、電球を省エネLEDに交換する、地域のルールに沿ったゴミの分別を徹底する、などが考えられる。

●みんなで支え合う社会へ

エシカル消費は「社会が豊かなときに、お金の余裕がある人が実践するもの」ではない。一人一人が、思いやりを持った消費行動を心掛けて、商品が届くまでの背景や廃棄された後の影響を考え、そこにある課題を知り、その解決につながるようなモノやサービスを利用することが、次の世代へバトンをつないでいく我々の役割だ。消費と社会のつながりを「自分のこと」として捉え、世界の未来を変えるために、いまずぐに行動することが大事だ。一例を挙げると、買いだめ、買占めをしない、必要なものを必要な分だけ購入する、今のことだけを考えず未来への影響を考える、海外で問題となっている社会的課題に目を向ける、自分のことだけを考えず相手のことを考えて行動する、ユニバーサルデザインを意識する、多様性を重視しダイバーシティの尊重、などがある。

※関連のWEBサイトから著者改編

注目の新技術シリーズ 第31弾

◎ いま注目のフードテック

食とITが融合する「Food Tech（フードテック）」。ITを活用して食料の生産から加工、流通、消費までのサプライチェーンを見直して食品の廃棄・ロスの改善に役立ったり、IoTやAIを活用したスマート農業、インターネットと家電が連携したりするスマートキッチンなど、フードテックの適用範囲が広がっている。

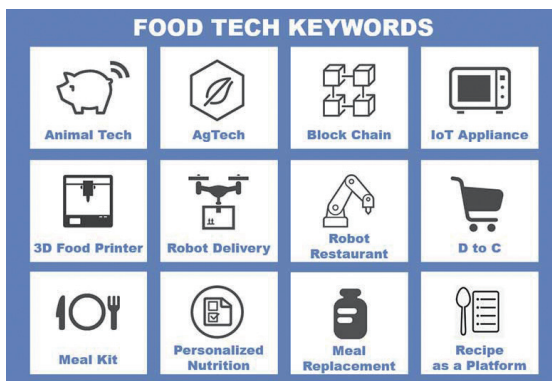
◆市場規模700兆円

フードテックとは、食とITが融合すること。金融とITが融合したFinTech（フィンテック）が従来の金融の枠を超えて新たなビジネスを生み出したように、フードテックも食とITが融合することで新たな産業、ビジネスが創出されると期待されている。ある米投資会社によれば、2017年のフードテック市場への投資額は100億ドル（1兆1,000億円）を超えたという。今後、フードテック市場規模は世界で700兆円に上ると見積もっている。フードテックのビジネスとしては、IoTやAIを活用したスマート農業による新しい農法や食品の開発が進んでいる。センサーで栽培施設内の温度・湿度の管理や、野菜の生育状況をリアルタイムに把握したり、気象データを収集・解析したりすることで農産物の効率的な生産・収穫・流通を可能にしている。センサーやITを活用した農産物の生産は、フードテックの言葉が生まれる以前から様々な取り組みが行われてきた。例えば、ITやバイオテクノロジーを利用するキノコ類の工場生産は数十年前から行われており、かつては山の中で育成・収穫していたキノコ栽培を効率化し、安定供給していることもその一例だ。



◆食糧問題の課題解決なるか

フードテックが注目される理由の1つが、人類の課題である食糧問題に貢献できると期待されているからだ。国際連合食糧農業機関（FAO）によると、農業生産から消費に至るフードサプライチェーン全体で、食料の約1/3が捨てられ、その量は1年あたり約13億トンに上るといふ。国連のSDGs（持続可能な開発目標）においても、2030年までに小売り・消費レベルにおける世界全体の一人あたりの食料廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させるとの目標を掲げる。



フードテックのキーワード

フードテックは日本の農業の問題を解決する可能性もある。日本の農家は高齢化が進み、後継者不足もあって耕作放棄地も増えている。フードテックを活用して農産物の生産性を高めたり、付加価値の高い農産物にシフトしたりするなど、農地の有効利用や雇用の拡大も期待できる。また、農業とは無縁だった家電メーカーなど異業種の参入を促したり、外食産業がITを活用してサービスを高度化したりするなど、食を起点にビジネスを広げられる可能性もある。

◆環境や健康にも効果のある代替食

持続可能な社会に向けたフードテックの取り組みの1つに、食肉の代替がある。日本でも大豆を使ったハンバーグなどが市販されているが、米国では食材の質感や調理法をITで解析し、味や香りを損なわずに調理する「分子調理法」に着目。植物由来の肉や卵などの食品を再現し、植物の材料だけで食感も味も本物そっくりのハンバーガーを作り出している。ハンバーガーの食材を肉から植物に変えることにより、環境や健康にも大きな効果が見込まれる。これまでの食肉ビジネスは牛の放牧などで資源を無駄にし、森林破壊や温暖化の一因になっているとも言われる。工場生産できる代替肉であれば、環境にもやさしく、食肉の生産量を減らせる効果がある。また、植物由来の代替肉は低価格でヘルシーといった利点があり、米国の食品会社をはじめ、食肉の生産量が多いオーストラリアやニュージーランドなどで代替肉への取り組みが始まっている。



人工肉

◆異業種も参入



植物工場

日本でもフードテックに着目し、様々な取り組みが進んでいる。外食レストランを展開するある企業では、都内の一部店舗でフードテックの実証実験を行っている。例えば、調理器具（オープン）にメニューの調理方法を記録したSDカードを差し込み、店員はボタンでメニューを選ぶだけで自動

的に調理方法を調節。アルバイト店員でも調理できるという。また、掃除ロボットやキャッシュレス決済の導入により、店舗の掃除やレジ締め作業を不要にするなど、業務を効率化している。今後は最新IT活用を他の店舗にも広げるといふ。また、フードテックにより、家電メーカーや住宅設備メーカーなどとのビジネス連携も加速しようとしている。ある企業は、キッチン家電にレシピを提供するスマートキッチンサービスに取り組んでいる。

◆ベンチャー企業を創出

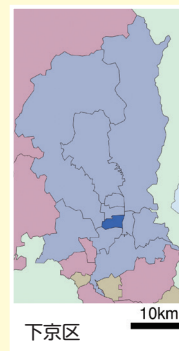
フードテックはベンチャー企業のビジネス創出でも期待される。農産物や加工食品などの食品宅配を展開するある企業では、フードテック分野に特化した投資・提携を行うファンドを立ち上げている。そして、農業技術のベンチャー企業と資本提携。同社が開発したAIシステムを活用した農産物の特別栽培を支援する機能を共同開発している。特別栽培は草取りや施肥に手間と時間がかかるといった問題があったが、ITやAIを活用することにより、特別栽培の見える化や肥培管理の自動化が可能になり、付加価値の高い農産物を生産できる。

※関連のWEBサイトから著者改編

京都の 「地区」 紹介シリーズ

第11回 「下京区」

京都市下京区は、北は四条通り、東は川端通り、南はJR東海道線、西はおおよそ西大路通りに囲まれた地域である。中京区、上京区と共に京都市の中心地を形成している。高度成長期に商業地化が進み人口が急減したが、1995年以降の都心回帰現象により人口増加に転じている。現在の推計人口は約83,000人。



10km

下京区



西本願寺



京都駅



東本願寺



京都経済センター



四条河原町

平安時代においては、平安京の南側を下辺（しものわたり）、北側を上辺（かみのわたり）と呼び、それが中世に下京、上京となった。境界線はおおよそ二条通りだったと言われている。上京には京都御所があり富裕層の住居区域、下京は商業地域であり民衆の街だった。昭和4年に上京区と下京区から左京区、中京区、東山区が分区となった。昭和30年に下京区から南区が分区となった。

四条烏丸周辺には、京都経済センターをはじめ多くの金融機関、企業の本社や支店が集まっており、一大ビジネス街を形成している。また、東の河原町四条周辺は京都の商業地の中心地である。域内には東本願寺、西本願寺をはじめ多くの寺院、観光スポットになった京都鉄道博物館、京都水族館などの梅小路公園がある。京都市は、京都駅の西地区、東地区の再開発に力を入れている。

法律の現場から

第8回 「賃貸借（借地借家）」

今回のテーマは「賃貸借（借地借家）」です。

賃貸借に関するご相談は、色々なパターンがありますが、今回は、次のようなケースを想定して、お話させていただきます。

和菓子屋を営むXは、Yより店舗を借り受けて、営業を行っている。Xは、賃貸借契約の期間が満了する6ヶ月前に、Yから「自社で使う必要がでてきたので、契約は更新しない。契約期間の満了時に出て行ってほしい。」との申出を受けた。Xは、6ヶ月後に店舗を明け渡す必要があるか。

結論から言うと、「明け渡す必要はない（少なくとも、その可能性が高い）」という答えになります。

建物の賃貸借に関しては、民法の特則である借地借家法という法律が適用され、賃借人は非常に強い法的保護を受けます。たとえば、契約期間の満了であっても、賃借人が賃貸借

契約を終了させるためには「正当の事由」が必要になります。そして、「正当の事由」が認められるためのハードルは結構高く、多くの場合は一定の金銭交付（いわゆる立退料の支払）が必要になります。したがって、賃借人Xとしては、賃借人Yからの申入れに応じて、唯々諾々と店舗を明け渡す必要はないことになります。

上記のとおり、借地借家法は賃借人に対し強い保護を与えており、逆に言えば、土地又は建物を賃貸する場合は、同法を意識しておく必要があります。たとえば、青空駐車場として賃貸する場合は借地借家法の適用はありませんが、同土地に倉庫等の建築を認めた場合、「建物の所有を目的とする土地の賃借権」として、借地借家法が適用される可能性がありますので、注意が必要です。

Profile 井上 和人

昭和47年高知市生まれ。都銀勤務を経て平成23年弁護士登録。平成27年つかさ法律事務所開設。

〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上ル 京樂烏丸ビル7階
TEL：075-231-2751

気になる **数字シリーズ No.10**

53.68%

2017年の衆議院議員小選挙区選挙の投票率。2012年は59.32%、2014年は52.66%だった。この間、選挙権を持つ年齢は18歳に引き下げられた。全体の有権者人数は増えたのだが、投票率は増加しない。若年層の投票率は30%台で、なかなか増加しない。大型商業施設などでの投票所も全国40か所に設けられたが、全体の投票率を増加させる効果は限定的だ。NETでの投票が可能になれば、投票率はぐっと増加すると思われるが、なりすましやセキュリティの課題があり、なかなか諸外国のように簡単に実現しない。投票率の数パーセントで結果はがらりと変わる。デンマークのように80%台の投票率がコンスタントに維持できれば、日本の政治も大きく転換点を迎えると思われる。

第29期 成岡秀夫経営塾 **マネジメント基本講座シリーズ**
貴社オリジナル版のご案内

NMO 勉強会の主宰代表であり中小企業診断士の成岡秀夫が、**貴社オリジナルのマネジメント基本講座**を提供します。

- (1) 会社経営に必須の項目を、少人数制で基礎から懇切丁寧に講義します。
- (2) 貴社の業界、規模、業態に合わせた内容に編纂して提供します。
- (3) 少人数での研修ですので、特に他の受講者を意識せず、気楽に受講できます。
- (4) 講義内容に関しては、貴社と事前に打ち合わせを行い貴社オリジナルの内容といたします。

経営者の方、後継者の方、幹部社員の方のご参加をお勧めいたします。ご検討いただきますよう、ご案内申し上げます。

- 日程** 貴社ご希望の日程で設定します。土日曜日、祝祭日も可能です
時間 貴社ご希望の時間帯で設定します。1コマ2時間です
場所 貴社ご希望の場所で設定します(会場費が有料の場合は会場費を貴社ご負担ください)
形式 成岡からの講義形式/参加者との質疑応答
費用 参加人数×@3,300円(消費税込)/回
定員 特に上限はありませんが、最低人数は3名以上です

標準的なスケジュールと内容 ※講義内容の進捗によっては、回数の増減や順番の入れ替えなど、臨機応変に行います。

講座番号	開講日	曜日	課 題
1	第1か月目	土曜日	決算書・試算表を理解する ～損益計算書が表す売上と利益の考え方～
2	第1か月目	土曜日	決算書・試算表を理解する ～貸借対照表の資産と負債の意味～
3	第2か月目	土曜日	キャッシュフロー計算書からつかむ資金の動き ～現実の資金繰りのポイント～
4	第2か月目	土曜日	設備投資の投資判断基準と管理会計の活用 ～収益管理の考え方～
5	第3か月目	土曜日	事業計画の作り方 ～3年先を考えて来年を考える～
6	第3か月目	土曜日	経営戦略の立て方と考え方 ～会社運営のポイント～

編集後記

衆議院選挙が終わった。今回は短期決戦で、公示から投票日まであまり日にちがなかった。準備不足と言う評価もあったが、何か際立った争点のない盛り上げりに欠ける選挙だった。期日前投票に行ったが、やはり投票率は50%台で終わってしまった。これから4年間、大事な国政を預かる議員を選ぶのだから、もう少し関心があってもよさそうなものだが。次回の参議院選挙にはこぞって投票に行こう。(な)

今月の
推薦図書

2022年版日経業界地図

編 者：日本経済新聞
 発 行：日経BP
 発行日：2021年8月20日
 定 価：1,430円
 ページ数：285ページ
 版 型：A4変型判



常識的な業界地図が全く様変わりした。聞いたこともない業界が生まれ、成長し、縁がなかった業界同士がつながる。花形であった業界が地盤沈下する。社会で働く人々、市場の求めるものが、どんどん変わっていく。何より求められるものは、「安心な社会、健康で幸福な生活、やりがいある仕事」だ。また、2030年までにSDGsが定める目標の達成も求められる。かつてのように、過度の負担を強いる仕事は、この世からなくなっていくだろう。コロナショックの傷口が癒えないなかで、これからどのような業界が伸びて、どのような業界が廃れていくか。どんな新しい業界が生まれるだろうか。多くのヒントが満載だ。

- 目次**
- ・2030年の業界地図
 - ・世界シェア70品目
 - ・注目の業界
 - ・業界別
自動車/機械/造船/電機/精密/IT/エンタメ/メディア/コンテンツ/素材/医薬/食品/流通/小売/専門店/運輸/環境/不動産/エネルギー/自然/金融/サービス/企業グループ

ソニー再生

～変革を成し遂げた
「異端のリーダーシップ」～

著 者：平井 一夫
 (ソニーグループ元代表取締役・前会長)

発 行：日本経済新聞出版
 発行日：2021年7月12日
 定 価：1,760円
 ページ数：276ページ
 版 型：B5判



崖っぷちに立たされたソニーの再生を託され、これまで3度の事業再生を成し遂げた著者のリーダーシップに対する卓越した見解が、随所にちりばめられている。自信をなくした社員を鼓舞し、信頼関係を築き、困難に立ち向かった。その際、戦術や戦略は重要だが、それだけでは組織の再生はできない。何より、リーダーのEQ(心の知能指数)が高くないといけない。少年時代から海外で長い時間を過ごし、常に「異邦人」として「異端」の人生を歩んできたことが、著者の哲学のベースになっている。元気を失っている多くの企業経営者が輝きを取り戻すきっかけになる内容だ。

- 目次**
- プロローグ：約束
 - 第1章：異邦人
 - 第2章：プレイステーションとの出会い
 - 第3章：ソニーを潰す気か！
 - 第4章：嵐の中で
 - 第5章：痛みを伴う改革
 - 第6章：新たな息吹
 - エピローグ：卒業